

令和 5 年度 学校教育自己診断分析

対象

生徒 707 名（回収率 99.9%） 保護者 447 名（回収率 63.1%） 教職員 61 名（回収率 98.3%）

対象別考察

<生徒>

・45 項目中 36 項目において肯定率が増加（昨年と比較して項目数は 15 項目増加）、減少したのは 4 項目のみとなった。また、2 年連続肯定率が増加した項目は 15 項目。5 ポイント以上増加したものは 17 項目、2 ポイント以上減少したものは無かった。全般的に生徒の肯定的評価が上昇している。喜ばしい結果となった。最も上昇したものは「27. 学校で地震や火災などの災害がおこった場合の避難行動について知らされている。」が 87%で 17 ポイント上昇。昨年度は 2 回予定されていた避難訓練が降雨によるグラウンド状態不良のため教室で放送による実施のみとなったが、今年度は 2 回とも実施できたことが理由と考えられる。その他では「15. 学校生活についての先生の指導には納得できる。」が 61%で 12 ポイント上昇。教員の対話を大切にした粘り強い指導の成果と言える。「5. 実験・観察・実習など、体験的に学ぶ授業や行事がある。」が 74%と「31. 学校のホームページを見ることがある。」が 44%で、2 項目とも 11 ポイント上昇した。下降したものは 4 項目あるがいずれも下げ幅が 1 %のため、記述は省略する。

・授業における満足度が全ての項目で上昇し、高い数値であり評価できる。昨年度の課題になっていた「9. 教え方に工夫をしている先生が多い。」が 79%で 8 ポイント上昇した。1 人 1 台端末を有効に活用した「効果的な教授法」や「主体的・対話的で深い学び」について引き続き研修を重ね、さらに組織的な授業改革を推進したい。「7. 授業では、自分の考えをまとめたり、話し合ったり、発表することがある。」86%と「8. 学校での様々な活動をととして、自分の考えを文章にまとめる力が身に付いた。」73%とともに 2 年連続で増加。新カリキュラムの成果が表れている。

・校内で自習する生徒が 53%。「14. 学校の授業以外に、平均すると 1 日 1 時間以上学習している。」が 1 ポイント増加しているものの 44%で低い数値となっている。にもかかわらず、「12. 勉強と部活動の両立ができている。」が 73%で 5 ポイント上昇しており、実態との乖離が見られる。学習習慣は部活動を軸として身につけさせたい。

【2 年連続しかも肯定率が合わせて 10%以上上昇した項目は 5 項目】

「5. 実験・観察・実習など、体験的に学ぶ授業や行事がある。」が 74%。2 年間で 12 ポイント上昇。「6. ボランティアや高大連携など、学校外で学ぶ機会がある。」が 61%。2 年間で 14 ポイント上昇。「18. 保健室や教育相談室など、気軽に相談する場所がある。」が 76%。2 年間で 10 ポイント上昇。「27. 始業式や終業式などでの校長の話に興味を持つことができる。」が 48%。2 年間で 10 ポイント上昇。「44. 総合学科の様々な取り組みで、自分で考える力や自主性を伸ばすことができた。」が 84%。2 年間で 12 ポイント上昇。

<保護者>

・14 項目において肯定率が増加した。13 項目で満足度が減少しているが下げ幅は 3 %が最大であった。2 年間連続して減少しているものは 7 項目ある。2 年連続で減少し、2 年間で 5 %以上の減少が生じた項目に着目する。

【2年連続しかも肯定率が合わせて5%以上減少した項目は2項目】

「12. 学校の生徒指導の方針に共感できる。」72%。2年間で6ポイント減。生徒の「15. 学校生活についての先生の指導には納得できる。」が61%で12ポイント上昇という結果と乖離が見られる。「25. 学校の施設は清掃が行き届き、学習環境が整備されている。」72%。2年間で5ポイント減。

2年間連続して増加しているものは6項目ある。2年連続で増加し、2年間で5%以上の増加した項目に着目する。

【2年連続しかも肯定率が合わせて5%以上増加した項目は2項目】

「9. 子どもは授業がわかりやすく楽しいと言っている。」が62%。2年間で7ポイント上昇。3年間で10ポイント上昇。教員にとって喜ばしい結果となった。「15. 体育祭（今年度はスポーツ大会）、文化祭（今年度は青雲フェス）、音楽祭や修学旅行などの学校行事は、生徒が積極的に参加できるよう工夫されている。」89%。2年間で7ポイント上昇。「26. 学校の授業参観や学校行事に参加したことがある。」76%。2年間で13ポイント上昇。「30. P T A活動についての情報提供は適切である。」が92%。2年間で12ポイント上昇。

また、今年度、5%以上の増減が生じた項目を示す。

【今年度肯定率が5%以上増加した項目は3項目】

「9. 子どもは授業がわかりやすく楽しいと言っている。」が62%で6ポイント上昇。「26. 学校のホームページやメール配信の内容は適切である。」95%で5ポイント上昇。欠席連絡や保護者向けプリントの配付をホームページやメール等で実施することにしたことが肯定的に評価されたと思われる。「30. P T A活動についての情報提供は適切である。」が92%で8ポイント上昇。5%以上減少した項目はなかった。

各カテゴリー別

<学校生活>

・「1. 学校へ行くのが楽しい」生徒86%・保護者78%、「2. 学校に信頼できる友達がいる」生徒96%・保護者91%、生徒「21. クラスには話しやすい雰囲気がある」89%、保護者「13. 学校の雰囲気がよく、生徒が生き生きしている」79%、生徒「15. 学校行事は楽しい」90%、保護者「15. 学校行事は、生徒が積極的に参加できるよう工夫されている」89%、「17. いじめなど、困っていることに真剣に対応してくれる(と思う)」生徒85%(7%アップ)・保護者82%の肯定的回答があり、生徒は安心して本校での学校生活を送っており、保護者も同様に感じているとうかがえる。今後も高い肯定的回答を維持できるよう取り組みを進めていく。

・「16. 先生は悩みや相談に親身になって応じてくれる」生徒77%(4%アップ)、「18. 保健室や教育相談室など、気軽に相談する場所がある。」生徒76%(7%アップ2年間で10%アップ)。今年度、重点事項として取り組んできた教育相談の充実を来年度も継続し、生徒に教員の寄り添い感が伝わるよう努力が必要である。多様な生徒が入学してくる昨今の状況のなか、一人でも多くの生徒が満足して本校を無事、卒業できるように大切な視点であると言える。

<学習活動>

「4. 興味関心を持って取り組むことができる授業が多い」72%(6%アップ)、「5. 実験・観察・実習など、体験的に学ぶ授業や行事がある」74%(11%アップ)、「7. 自分の考えをまとめたり、話し合ったり、発表することがある」86%、「11. 興味・関心、適正・進路希望に応じて選べる選択科目が多い」93%、「30. 視覚教材やコンピューターなどを使う授業が多い」92%、「33. 1人1台端末を効果的に活用している」89%(9%アップ)、の肯定的回答があり、教職員の創意工夫により探究的、体験的な学びおよび個

別最適な学びの提供に貢献できたと実感している。

<キャリア教育>

・「19. 将来の進路や生き方について考える授業や行事がある」生徒 89% 「20. 進路についての情報をよく知らせてくれる」生徒 88%。ともに高い数値を示している。担任とガイダンス室との連携による、きめ細かい対応やデータに基づいた進路指導部、担任を中心とした生徒に諦めさせない進路指導、そして「総合学科の強みであるキャリア教育」の成果といえる。

<生徒指導>

・「一昨年まで4年連続向上していたが昨年度9ポイント減少した「生徒指導への納得感」が61%で12ポイントアップし、長期的に見て順調に上昇している。引き続き今後も粘り強い指導を継続し「説得」「納得」に基づく指導を心がけ、さらに向上をめざす必要がある。保護者においては「12. 学校の生徒指導の方針に共感できる」72%（1%ダウン）となっており、2年連続で減少している。生徒同様、保護者にもこれまで以上に、対話を大切にしたい、丁寧で粘り強い対応が望まれる。

<人権意識・人権教育>

・「25. 人権の大切さについて学ぶ授業や行事がある」生徒 81%（1%アップ）、「26. 障がい者のことや、共生の大切さについて学ぶ授業や行事がある。」生徒 75%（増減なし）、保護者においては「18. 学校は人権を尊重する意識を育てようとしている」81%と2年連続でダウンとなったが、依然高い肯定率を示している。今後も、生徒・教員・保護者合同で人権研修を実施し高評価を維持したい。

<情報提供>

・「27. 学校のホームページを見ることがある」保護者 76%（1%アップ）は高い肯定率を示している。学校の様子や部活動の活躍、朝夕の講習の様子、図書室の催しのお知らせなどを数多く更新（年 400 回程度のペース）している。また、学校公式Instagramや各クラブ独自のInstagramを合計すると 500 以上の投稿を行った。保護者「28. 学校のホームページや携帯電話メール配信の内容は適切である。」95%（5%アップ）、「29. 学校は教育情報について提供の努力をしている」89%（3%アップ）と、情報提供に対する保護者の肯定率は非常に高い。生徒 1 人 1 台端末が普及したことやコロナ禍の経験からオンライン授業は日常のものとなっている。今後もホームページを活用しながら、生徒の元気な姿、様々な場面での活躍を在校生・保護者はもとより、地域や中学生にも発信していく。また、学校から保護者や生徒へのプリントの配付、情報発信の手段として、グループウェアやフォーム作成ツールを積極的に活用して学校教育活動の周知および危機管理における緊急連絡の発信等を行っていききたい。なお、今回の学校教育自己診断は生徒、保護者、教職員ともオンラインで実施。ペーパーレス化を実現した。